

## 編集後記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関にセンターの活動を紹介するための情報源としてだけでなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割があります。センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報(第21号)は、21年度目に当たる令和2年度の活動を記録したものです。

令和2年度は、センター開設20周年を迎え、様々な記念イベントを企画していましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により、予防対策の観点から、記念イベントを含む多くの事業が中止・縮小されました。展示館は、改修工事のため休館した令和2年1月8日から継続して6月30日まで、さらに12月24日から令和3年3月22日まで臨時休館となりました。海外への研究員の派遣及び海外からの研修員・研究員の受入れは全面的に中止となり、学会はオンライン開催や紙面発表が主流となりました。

センターの環境学習機能の中心である展示館は、変化していく環境問題に対応するため、大型シアターの設置や展示物のリニューアル等改修工事を行いました。本来、令和2年3月24日に予定されていたリニューアルオープンを7月1日に行い、その後は多くの方々に御利用いただいています。また、リニューアルにあたって展示館の愛称を募集し、応募の中から「彩かんかん(さいかんかん)」に決定しました。

環境学習や情報発信については、対面形式で行うことは困難な状況となりましたが、フェイスブックの活用強化や5月からYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」、11月からインスタグラムを開始するなどWEBを利用した発信に力を入れてきました。毎年開催しているセンター講演会は、初めてオンラインで実施しました。

今後、センターでは新型コロナウイルス感染症の発生動向に配慮しながら、経常的な調査活動・研究活動だけでなく、多様化する県内の環境問題の解決に向けて時代に即した業務を進めていく所存です。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものですが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負っています。

令和3年7月

編集委員一同

### 〈編集委員会〉

|                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 松本利恵(研究推進室長)     | 三輪誠(研究推進室)          |
| 八戸昭一(研究推進室)      | 立花幹(事務局)            |
| 横塚敏之(研究企画室)      | 武藤洋介(温暖化対策担当)       |
| 佐坂公規(大気環境担当)     | 米倉哲志(自然環境担当)        |
| 長谷隆仁(資源循環・廃棄物担当) | 蓑毛康太郎(化学物質・環境放射能担当) |
| 田中仁志(水環境担当)      | 石山高(土壌・地下水・地盤担当)    |

### 〈協力者〉

|              |            |
|--------------|------------|
| 嶋田知英(研究企画室長) | 茂木守(研究推進室) |
|--------------|------------|

埼玉県環境科学国際センター報

第21号 令和2年度

令和3年7月30日発行

発行:埼玉県環境科学国際センター